1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400034		
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科医院		
事業所名	グループホームまおの里		
所在地	香川県善通寺市大麻町2080-1		
自己評価作成日	令和6年9月21日	評価結果市町受理日	令和7年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様・ご家族様のお話を傾聴し不安を取り除き、ご入居者様一人一人ができる事に目を向け、生き生きと過ごして頂けるよう支援しております。コロナ禍でもなるべくご家族様とお会いできるよう、十分な感染対策を施したうえで、窓越しに対面してお話して頂けるようご案内しております。また、ホーム内に閉じこもらないように散歩しながらホーム外の方と会話をしたり、現在の機能を落とさないよう毎日の生活の中で機能訓練に取り組んでおります。6月より月1回体力測定を行い、TUGや握力測定を実施しております。身体の状態や体力を把握し、ご入居者様に適した運動内容など、法人内の理学療法士と相談しつつ、健康維持や介護予防に繋がるよう努めております。認知症ケアには季節感を感じて頂くことも必要のため、衣類や季節ごとの掲示等で配慮しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

弘法大師空海の生誕地であり、古墳や寺社が点在する閑静な地にある1ユニットのアットホームな事業所である。経営母体の医療法人を中心に住宅型有料老人ホーム、デイサービス、小規模多機能居宅介護の事業所が集まっており、地域に密着した事業所である。機能訓練にも力を入れており、地域のニーズに合わせた事業所になっている。近くのコンビニの移動販売があり、利用者の楽しみになっている。

基本情報リンク先	
【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和6年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25,29,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31. 33. 34)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても生き生きとした楽しい時間を過ごす力を持っている。その力を引き出すことが我々の役割であることを目標に、法人の運営理念と共に毎年法人として標語を作成し、毎朝朝礼時・ミーティング時に唱和している	創業者が作成した創業時からの運営理念とともに、職員が毎年目標とする法人標語を作成して、朝礼やミーティングの唱和して理念の実践に努められている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館へご入居者様の作品の掲示や運営推進会議を通して情報を集め、積極的な交流を目指している。また、毎年公民館で開催される文化祭にもR5年から再開。ご家族様にも周知し、ご友人や親族も交えて見に来て頂いている	春と秋に開催される公民館での祭りに参加され、利用者と職員が力を合わせて展示物の制作等に励まれている。また、自治会の溝掃除などの行事にも積極的に参加されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期便や運営推進会議、GH新聞を通じて情報を発信している。また、感染状況をみながら法人内で中学生の職場体験を希望があれば受け入れを再開し、グループホームの事を知ってもらえるよう努めていく予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に開催。民生委員・自治会長・地域包括・大杉医師・地域の方(訪問販売)を招いて、施設の様子をスライドショーと共に説明。その後、質疑応答にてご意見を伺っている	理事長を中心にした事業所の責任者や職員による、市や地域の方との交流によってお互いの信頼関係がうまく築けている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時にご意見を伺っている	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加や、市への書類の提出時などに協力関係の構築に努められている。地域包括支援センターにはGH新聞なども配布されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際、身体拘束について理解を深めるよう努めている。又、3ヶ月に1度身体拘束委員会を開催し、市担当者や民生委員の方に報告し、ご意見をいただいている。また、玄関は最近の世情からも安全面を重視し、施錠させてもらっている。出来る限り散歩には出掛けており、いつでも自由に外出できるという気持ちを利用者の方と共有している	定期的に身体拘束委員会を開催、適宜職員への教育も行われている。運営推進会議の議題にも上げ、行政や地域の方々と一緒になって取組まれている。施錠については、国道や鉄道の線路が近いので安全面を考えて玄関は昼間でも施錠しているが、散歩等自由な出入りに努められている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンスにて話し合う機会を持ち虐待防止に努めている。また、日頃からご入居者様の状態観察や入浴時の皮膚観察等気を付けている。職員も「ストレスチェック」などを機にストレスをため込まないようお互い助け合える関係づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加し、情報共有を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い必ず同意を得られた上で契約している。又改正があった場合、ご家族様に説明しご理解を得られた上でサインを頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	活動状況や行事予定は毎月の「まおの定期便」や「GH新聞」も季刊で発行。月1回のご家族様へのお手紙や、近隣の地域包括には、GH新聞を配布し報告している。また、面会時や電話にて密に連絡を行いご意見ご要望をミーティング等で検討し、運営推進会議でご意見を伺いつつ、次の課題として改善に努めている	月刊「まおの定期便」や季刊「GH新聞」の配布、面会や連絡時の聞き取りなどを通じて、利用者、家族等の意見の反映に努められている	更に、利用者や家族等の運営推進会議への参加増加や、家族会の開催などを通じた交流機会の発展に期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を募集しており、毎月のミーティングで検討・共有している	事務長や管理責任者は、職員が意見や提案をし易い環境になるよう気を配っており、職員会や法人の定例会等で検討がされている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からコミュニケーションをとり気軽に相談出来る環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修の情報を回覧し自主的な参加を促している。法人内研修には必ず誰かが参加し、研修後は資料の回覧にて情報を共有している。また、資格取得に向けての「助成金制度」あり、資格取得後は資格手当も支給している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流会を通じて情報収集しサービスに生かせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面会の機会をいただき、ご要望をお伺いする等関係作りに努めている。入所前のモニタリングを通してケアカンファレンスを行い職員で情報共有しどうする事が安心できるか、またホームに馴染めるまで「気配り目配り声くばり」し、安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場から、ご本人様のホームでの生活に不安な事、心配な事をお伺いし、ご家族様にも安心してもらえる関係作りに努めている。入居後は、ご家族様へこまめに電話し、状況報告を行っている。また、必要に応じてご本人様と電話する機会を設け、安心して頂ける環境作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の意向をしっかりと伺いし、他のサービスも含めて検討し、ご本人様とご家族様の意向を反映したサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を通し、居場所や役割を理解していただくと共に信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回ご本人様からご家族様あてに手紙を書いて頂いたり、面会や電話を通してご家族様との交流を絶やさないよう努めている。職員がご家族様へ電話をする際には、ご本人様にも代わって会話する機会を多く設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人にはあらかじめ予約をいただいた上で感染対策を取り、面会していただいている。また、いつでも、電話で会話ができるように支援している	利用者のご近所の方の面会が多い。コロナの影響でガラス越しの面会になっているがいつでも来れるような雰囲気になるよう配慮がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の出来る事をしっかりと把握し、その力を生かせるよう家事やレクリエーション参加を促している。おやつや昼食作りも定期的に取り入れて、ご入居者様と一緒にっており毎回好評である。また、季節ごとにイベントや行事食を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居時ご本人様の状況や好みなどを詳しく情報提供し、いつでも転居先とご本人様、ご家族様へ相談できることを伝えている		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が個別に担当を持ち情報を収集し、毎月1回のケアカンファレンスにて共有・検討を行っている	日常の何気ない会話の中から利用者の希望をくみ取れるように努められており、毎月のケアカンファレンスで共有し検討がなされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様より無理のない範囲でこれまでの生活歴などをお伺いし、経過等の把握に努めている。紹介先の事業所とも情報共有を密に行うことでより良いサービスが行えるよう、努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動を記録し、ご本人様の持っている力をミーティングやケアカンファレンスにて情報を共有し把握に努めている。また、ケース記録に記入して「見える化」に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンス、担当者会議にはご本人様・ご家族様をはじめ、医師(主治医・歯科医)、看護師、介護士など多職種連携して作成している。毎月のミーティングにて職員の気づきを共有し、介護に反映できるよう努めている	経営母体が医療法人であることも活かして、医師、看護師等多職種により検討して介護計画が作成されている。症状に変化があった時には迅速に計画の変更が行われている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様ごとに食事水分量、排泄状況等日々の状態を記録し、情報を共有している。必要時には、チームカンファレンスを行い検討し、対応の見直しをしている。また、状態に変化があればその都度申し送りノートに記載し、看護師にも報告し対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設である強みを生かし、主治医と共にその方の持つ機能を落とさないよう日々努めている。また、併設している病院のPTやOTとも相談して体力測定を実施。個々に応じた運動を取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴を尊重し、ご本人様の興味ある事を大切に支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、主治医を確認し希望される医療機関を受診している。必要に応じて主治医家族と相談し家族の協力も得ながら専門医の受診をお願いしている	入居時にかかりつけ医の希望を聞いているが、大半の利用者は連携医療機関を望まれている。連携医療機関の往診は基本的には2週間に1回行われているが、緊急時には迅速な対応がなされている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段より看護師と連携し体調の変化があればすぐに連携病院へ連絡し、指示を仰いでいる。24時間医師・看護師と連絡が取れる体制にある			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関とは連絡を密にし、スムーズに対応出来るよう心がけている。又、情報提供書を作成し連携に努めている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医と話し合い、ご本人様・ご家族様に寄り添った対応を心がけている。また、必要に応じて主治医と共にご家族様へ現状をお話し、ケアの方向性の変更も都度行えるよう、支援している	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に利用者や家族に対して説明を行っているが、経営母体が医療機関ということもあり、グループホームでの看取りの実績はない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタルチェック・状態の把握を行い主治医に報告して指示を仰いでいる。医師・看護師・管理者とは24時間連絡が取れる体制を整えている。また、月1回、併設病院の看護師への報告。リスクなどにも踏まえて早期対応が行えるような体制を取っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。夜間でも迅速に行動できるよう避難手順確認している。また、BCPマニュアルを作成	年2回の防災訓練を行っており、特に春は夜間想定避難訓練も行っている。水やお粥等の備蓄も3日分準備されている	夜間の災害については、地域の方々等の応援も検討が必要と思われる。避難訓練等に地域の方々の参加を呼びかけたり、推進会議を通じて協力体制を構築することを通じ、更に防災力の高い事業所づくりに期待します	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや言動で配慮すると共に個人情報の取り扱いの徹底に努めている	利用者一人ひとりに対して、人生の先輩として尊敬の念を持って接せられており、特に入浴や排泄時の声掛け等に配慮がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりから思いや希望を探り、その思いを尊重している。生活の中で自己決定できる場面を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに配慮し、無理強りする事なく、自身のペースで過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用。ご希望に添ったヘアースタイルにしてもらっている。入浴後には鏡を見ながら髪を整えて頂き、好みの化粧水を選べるように数種そろえている。化粧水は、使い慣れたものを持参している方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、嫌いな物等はメニュー変更している。また、定期的にご入居者様のリクエストがあった食事やおやつ作りを一緒にいき、楽しみに繋げている	食器は利用者の好みの物を持ち込み楽しく食事が出来るように配慮がなされている。おやつや昼食を職員と一緒に作ることもあり家庭的な雰囲気へと繋がっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する厨房から栄養バランスを考えたメニューが提供されている。食材や形態の変更も個別に対応している。食事や水分が不足している方には個別に嗜好品を用意する等工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアに加え、毎月必要に応じて訪問歯科の診察を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、数時間おきに声かけ誘導を行っている。又個人の排泄パターンを把握して声掛けを行うよう努めている。その方の状態に応じ、PTイレやオムツも組み合わせながら可能な限り残存機能を活かし通常のトイレでの排泄を心がけている	排泄チェック表により利用者一人ひとりのパターンを把握しており、昼間は下着で過ごされ、トイレでの排泄支援に努められている。夜間はポータブルトイレを使用されている方もおられる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションに運動や歩行訓練を取り入れ、排便を促している。また、排泄チェック表を用いて排便状況を職員間で共有し、主治医や看護師と連携して便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	洗身等自分で出来る所はやって頂き、出来ない所は介助見守りを行っている。入浴のタイミングは本人の状態と気分によって適宜変更している	利用者の能力に応じた介助を行っており、利用者一人ひとりが自由に楽しく入浴出来るように配慮がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて昼寝を取り入れている。また、夜間安眠して頂けるよう、日中は外気浴や散歩、体操を取り入れ支援している。中々寝付けない方は、温かい飲み物の提供や、お話を傾聴して安心して休んで頂けるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員全員が把握出来るよう申し送りやミーティングで共有している。変化があれば、その都度主治医・看護師に報告し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を生かして家事やクラフト、レクリエーションに取り組んでいる。また、毎月行事食の日を設定し、行事を行うことで楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩を行う時間を作っている。コロナ禍の為ドライブのみではあるが、季節によって外出支援も行っている	車窓からの花見など、徐々にではあるがコロナ前のような自由な外出支援に戻そうと工夫されている。国道や鉄道に気を付けながら事業所周辺の散歩も行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブルの原因となる為、いくらかお預かりさせて頂いている。またご希望や必要に応じて、ご本人様にかわり必要なものを購入する支援も行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回ご本人様の書いた手紙や写真、職員の書いた近況報告をお送りしている。希望があれば電話の利用もご案内している。携帯電話の持参や、職員がご家族様へ電話する際には、ご本人様も会話ができるように支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物をご入居者様と共に作成し掲示している。又、良く立ち寄る空間に草花を飾り癒しの空間を作れるよう、心がけている	明るくて広い共用空間に季節感あふれる作品や行事の写真などが飾られ、思い出話にも花が咲いている。また、次の行事等への励みにもなっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様同士、同テーブルに座れるよう、配席の配慮を行っている。また、フロアには、ソファや畳を設置し、くつろげる空間作りを提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、これまで使用されていた馴染みの物をご持参して頂いたり、ご家族様の写真を飾ったりと心地よく過ごせる雰囲気作りに努めている	ゆったりとした明るい部屋で、ベッドと押入れが備え付けられている。三段ボックスなど思い思いに好きな物を持ち込んだり、思い出の写真を貼ったりして心地よく過ごされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室にわかりやすい大きな字で表示している。座席や居室には名前を表示したり、個々の状況に応じて配慮している。フロア全体がバリアフリーで手すりが設置されており、廊下を安全に歩行できるようになっている		